

眼前に広がる絶景

福江島で地質の歴史が作り出した景色を眺めるには、城岳展望所がうってつけです。展望所の標高は 200m をわずかに上回るに過ぎませんが、ここからの絶景は、大量の溶岩流が目前の平地を形作った様子を物語っています。

火山が生んだ変化

ここ一帯はかつて五島層群の地層であった場所であり、広大な平地の左手に見えるノコギリ状の立小島と同様に、もともとの地表は砂岩・泥岩の層が露出した起伏の激しいものであったと考えられています。

約 90 万年前、火山の噴火によって大量の溶岩が流出し、今では八朔台地として知られる広大な平地を残しました。何十万年もの時を経て、この地は豊かで肥沃な土壤に恵まれるようになりました。急激に冷やされた溶岩が生んだ海岸部の岩場には、魚介類や海草など、様々な水生生物が生息するようになりました。

起伏の激しい立小島の姿と、比較的平たい台地の姿が成すコントラストは、火山活動の「ビフォア & アフター」をありありと表現しています。

今の日本を作った、安全な泊地

八朔台地の左手には白石湾が見えます。白石湾は千年以上にわたり、往来する船に対して天然の待避所の役割を果たしていました。およそ 700 年から 900 年にかけて、日本の学者と仏僧が率いる文化使節団の派遣が複数回行われ、大阪近辺で小型の木造船が出港していました。使節団の船は海岸沿いに航海した後外洋に出るのですが、それに先立ち五島列島に入港していました。展望所から見える入り江は、中国への危険な航海の前に追い風が来るのを待つための、天然の泊地として利用されていたのです。

眼下に広がる海岸には、大和の人々（日本人）に派遣された、勇敢な使節団を讃える記念碑が各所に建っています。使節団は、当時恐らく世界文明の頂点であった唐王朝（618年～907年）に派遣されていました。宗教、文学、文字、さらには五島列島名物のうどんの製法など、港を通して帰路に着く使節が伝えた知識は、日本文化に深い影響を残しました。